

資料

（＊印の付いている語句は、資料の最後に〔注〕がある。）

【文章Ⅰ】

を縛っていたもの——役割、立場、境遇、常識、固定観念など——がゆるみ、身動きがとりやすくなる。

それは体の感覚としても表れる。先に述べたように、対話が哲学的になると、体が軽くなった感じ、底が抜けて宙に浮いた感じがする。その時おそらくは、自分が思い込んでいた前提条件が分かって、それが揺らぐか、取っ払われたのだ。自分とは違う考え方、ものの見方を他の人から聞いた時、新たな視界が開けるのは、文字通り目の前の空間が広がって明るくなる開放感として表れる。今まで分かっていたことが分からなくなると、いわゆるモヤモヤした感覚、それこそ霧の中に迷い込んだ感じがする。

そうしたもろもろの感覚は、どこか似たところがある。何かから切り離された感じ。自分をつないでいたもの、自分が立っていた地盤から離れる。それは一方では、自分を縛りつけていたものからの解放感であり、他方で、自分を支えていたものを失う不安定感である。

解放感と不安定感——この両義的感覚は、まさしく自由の感覚であろう。それはある種の高揚感と緊張感を伴っている。対話の時に経験する全身がざわつく感じ、快感と不快感が混じった、どちらとも言えない感覚はそれなのではないか。

これはさしあたり私の個人的な感覚にすぎないかもしれない。しかし私自身は、哲学対話のさいにこのような自由の感覚を経験し、考えることで自由になれたのだという実感がある。

そして他の人の表情を見ていると、きつと同じような経験をしているのだという感触をもっている。参加者が眉間にしわを寄せて一見苦しげに見えながら、深いところで満ち足りていて、楽しんでいるように見える。この両義的な表情から、他の人たちも同じように自由を感じているように私には思えるのだ。

実際、前述のお母さんも言っているように、私たちは考えることを通してまさに自由を体感するのである。

他者と共に自由になる

自由にはもう一つの重要な点がある。それは個人と自由との関係である。私たちは、自由であることと、一人であることをしばしば結びつける。一人のほうが気ままで自由だと考えることが多い。哲学でも「他者危害の原則」、すなわち「他人にとって害にならないかぎり、自由を認めるべきだ」という考え方がある。

日常生活の中でも、「誰にも迷惑かけてないでしょ」と言って、自分の行動の自由を正当化する人がいる。「あんたに関係ないでしょ」というのも、口出しするな、私の勝手にさせてくれという、自分の自由を主張するためによく使われるセリフだ。

このような表現からも分かるように、個人の自由にとって他者は「障害」とされることが多い。実際、個人どうしの利害や価値観、意向は一致しないのが普通であろう。ある人の自由は他の人の自由と衝突する。そこで他者との間で折り合いをつける必要がある。他の人と関わることは、自由を制限するネガティブな要因となる。

だから、自分のお金と時間を謳歌するシングルをかつて「独身貴族」と呼び、逆に愛する人といっしょになって幸せなはずの結婚を「人生の墓場」と表現した。今でも、人といっしょにいるのは煩わしいと思う人はいる。一人で生きているほうが気楽だ、自由気ままでいられる。

たしかにそうだ。結婚も、人付き合いも、気をつかうだけ。相手が好きでも嫌いでも、いっしょにすることじたいが疲れる——そんなふうに思う人も多いだろう。だが本当にそうなのだろうか。本当にそれだけなのだろうか。

他者が根本的に自由の妨げなのだとすれば、他者と共に生きるのは、仕方がないからであって、③できれば他の人などいないほうがいいのだろうか。だとすれば、人と関わって生きているかぎり、私たちの人生は妥協の産物でしかないだろう。

（梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』による）

〔注〕

哲学カフェ： 哲学対話をするイベントや場のことを指す。哲学対話とは、複数人が輪になって座り、一つのテーマについて、自由に話をしながら、一緒に考えていくこと。

敷衍： 趣旨が徹底するように説明を加えること。

【文章Ⅱ】

ある哲学カフェを運営しているお母さんが、哲学対話を通して「物事を自分から切り離して考えられるようになった」と言っていた。そして「日常生活で負っている役割を脇に置いて私という個でいられる場」ができ、そこで「自由を体感できる」という。

ここには、思考と自由の関係が、きわめて的確かつ簡潔に言い表されている。蛇足になるかもしれないことを承知で、私なりにもう少し敷衍してみよう。

哲学対話で私たちは自ら問い、考え、語り、他の人がそれを受け止め、応答する。そして問いかけられ、さらに思考が促される。こうして私たちはお互いを鏡にして、そこから翻って自らを振り返る。

②それは抽象的な言葉で言えば、「相対化」とか「対象化」ということだろう。自分自身から、そして自分の置かれた状況、自分のもっている知識やものの見方から距離をとる。その時私たちは、それまでの自分自身から解き放たれる。自分

掲載の許可が得られないため公開できません